

学校研究について

1 研究主題 「主体的・協働的に学び、高め合う生徒の育成」 ～ICTと対話による深い学びを目指して～

＜主題設定理由＞

昨年度より生徒の活動量（思考量・対話量）を増やすことを目指し、「教師の発話量が全体の4割以下、ICTを効果的に活用した生徒の活動量が6割以上」を目標に取り組んできた。また、教員のICT活用を通した授業力の向上を図ることを目的に、授業の学び合い活動の中に1人1台端末を活用するように取り組んできた。その結果、全職員がICTを活用した様々な授業実践に取り組み、同時に生徒の活動量も増やすことができた。

一方で、より深い学びにつなげていくために対話とICTをどのように共存させていくべきよいか、また、授業の後半の深める場面をどのように充実させていくか、という新たな課題も見えてきた。そこで今年度は研究主題を上記のように設定し、研究に取り組むこととした。

2 育成を目指す資質・能力

他者と協働的に学ぶ力（人間関係形成・社会形成能力）

3 めざす生徒の学びの姿

- ・他者の考え方や立場を理解しようと努める
- ・相手の意見を聞いて、自分の考えを適切に表現する

4 研究仮説

- (1) 教師の発話量が全体の4割以下、ICTを効果的に活用した生徒の活動量が6割以上となることを目指した授業実践を行うことにより、学びの質を高めるための生徒の活動量（思考量・対話量）を確保し、主体的・協働的な学びを促すことができるであろう。
- (2) 生徒の様子を見取り、それを生かした手立て（問い合わせし、ゆさぶり発問、意図的指名など）を工夫することにより、深める場面を充実させ、「学びの実感」につなげることができるであろう。

5 研究の内容と手立て

(1) ICTを効果的に生かした授業づくり

- ①羽咋中授業スタイル（授業スタンダード）の学習過程において、1時間の授業の中での学び合いの場面を3回以上位置付ける。学び合いの場面のうち1回以上は端末等を活用する。
- ②「HAKUISM」を活用し、授業におけるICT活用力の向上を目指す。
- ③「深い学び」につなげる1人1台端末の効果的な活用の授業実践に取り組み、その実践を交流しあうなどの校内研修を行い、全職員が取り組みを共有できるようにする。

(2) 対話力の向上を目指す取り組み～対話の充実～

- ①コミュニケーションスキルを向上させるために、週1回の対話タイム「羽トークタイム」を継続して行う。どの学年でも1分間トークができるを目指す。
- ②「羽トーク」の話し合いの型やルールを授業中の対話に生かす。
- ③話し合いが活性化するように、話し合いのリーダーを意識した意図的な座席配置やペア・グループづくりを全学年で統一して行う。

(3) 深める場面を充実させる取り組み

- ①ペア、グループによる対話が必要感のあるものになるよう、話し合う内容を吟味する。
- ②生徒の姿を適切に見取り、深まりを促すような手立てや発問を工夫する。
- ③研究授業等で抽出生徒の授業記録（TC記録）をとることで、適切に生徒を見取る力をつけ、深める場面の充実につなげる。

(4) 生徒会活動と連携した取り組み

「新・学習ルール 5 か条」や「パソコンルール 3 か条」の定着を図る。また、「学習オリエンテーション」や「学習ルール強化週間」、「学習環境チェック」などの取組を生徒会活動と連携して行うことで、生徒の声を生かし、学習規律に対する生徒の意識を高める。

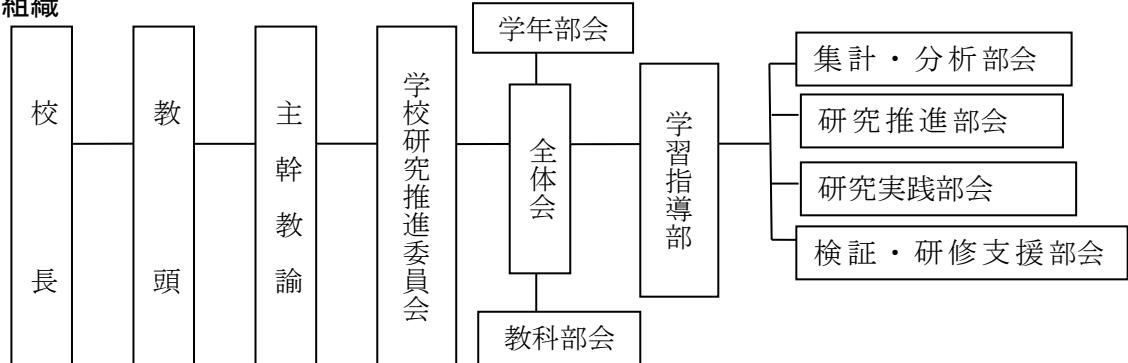
(5) 基礎・基本の定着

- ①「基本タイム」を活用して基礎・基本の定着を図る。
- ②朝の基本タイムに読書週間を設け、読書の習慣を付ける。
- ③毎日の 5 教科の課題で家庭学習の習慣化を図る。「宿題提出率 UP 作戦」や「自学ノートコンテスト」などの取組で家庭学習に対する意識の向上と内容の充実を図る。

6 検証方法

- (1) 研究授業の際などに授業記録 (TC 記録) を取り、生徒の様子を見取る。
- (2) 動画撮影した自分の授業を基に授業分析を行う。
- (3) 学校研究についてのアンケートを取り、定期的な検証や取組全体の検証を行う。

7 研究組織



(1)学校研究推進委員会

- ・学校研究の基本方針の企画を行う。
- ・校内研修計画の立案、情報収集、理論の作成を行う。

(2)学習指導部

- ・研究推進委員会の案について検討し、研修計画を練り上げる。

(3)全体会

- ・研修計画に基づき、実践活動の推進のために全職員の共通理解を図る。

(4)研究 4 部会

①集計・分析部会

- ・学校の目標を踏まえ、学力調査結果の集計・分析を行い、目標と現状との差から課題を明確にする。
- ・課題の原因を究明し、指導改善の方向性を示す。

②研究推進部会

- ・課題の克服や解決に向けて、実効性のある学力向上プランを作成する。

③研究実践部会

- ・学力向上プランを具体的・計画的に実行し、学校全体の指導力向上を図る。

④検証・研修支援部会

- ・学力向上プランの実施状況について、定期的な検証や取組全体の検証を行う。
- ・計画的な OJT や検証結果を踏まえ、必要となる校内研修を適宜行う。

(5)学年部会・教科部会

- ・研究主題にせまる指導方法や学習形態の工夫等の手立て及び重点を検討し、授業実践を通じて検証する。